

野生との共存

行動する動物園と大学

羽山伸一・土居利光・成島悦雄 編著

A5判／160頁／ISBN978-4-8052-0851-9／定価 1,890円（税込）

野生生物との共存がますます困難となり、動物に関わる動物園と大学が協働して行動して行くことが、今ほど必要になった時代はない。本書は、400名を超える参加者で好評だった連続講座「野生との共存」（共催：日本獣医生命科学大学・多摩動物公園・井の頭自然文化園）をもとに、動物園学、野生動物学の入門書ともなるよう10名の講演者が書き下ろした。執筆者らが所属する動物園、大学で取り組んできた野生動物に関わる保全、教育普及、研究の活動内容を紹介するユニークな本である。

目次（抜粋）

第1部 いのちを守る

第1章 野生動物と共存するために 羽山伸一（日本獣医生命科学大学）

- ・野生の危機と人間の関わり
- ・動物園と大学が協働する意味
- ・動物園と大学による保全活動
- ・野生復帰への挑戦

第2章 生物多様性と動物園・水族館の役割

土居利光（上野動物園園長）

- ・保全という言葉の意味
- ・保全が必要とされる理由
- ・自然保護と生物多様性
- ・生物多様性とは何か
- ・生息域内保全と生息域外保全
- ・日本の動物園の法的位置付け
- ・博物館法が期待する動物園の役割
- ・動物園が対象とする動物
- ・生物多様性保全における動物園・水族館の役割

第3章 生息地と協働した保全活動 ～イモリやトキを例として

成島悦雄（井の頭自然文化園園長）

- ・都立動物園と保全活動
- ・域内保全と域外保全
- ・人工繁殖技術の応用
- ・冷凍動物園
- ・飼育個体群の役割—絶滅の渦巻—
- ・飼育個体群を作る意味
- ・動物園と域内保全、域外保全
- ・都立動物園の取り組み
- ・生息地と協働した保全活動

第2部 いのちを伝える

第4章 伝えたいいのち ～レクリエーション同好会創部34年の歩みと未来へ

吉川美紀（日本獣医生命科学大学）

- ・レクリエーション同好会の歴史
- ・現在の活動内容
- ・大学と動物園が協力したら何ができるか

第5章 動物観察の楽しみ方

～動物解説員からのおすすめ

草野晴美（多摩動物公園）

- ・動物を見る
- ・「かわいい」の先にあるものは…
- ・大人ならではの奥深い観察
- ・野生動物と出会う
- ・ヒトと野生生物の共存

第6章 子どもと身近な自然をつなぐ

～井の頭自然文化園の取り組み

天野未知（井の頭自然文化園）

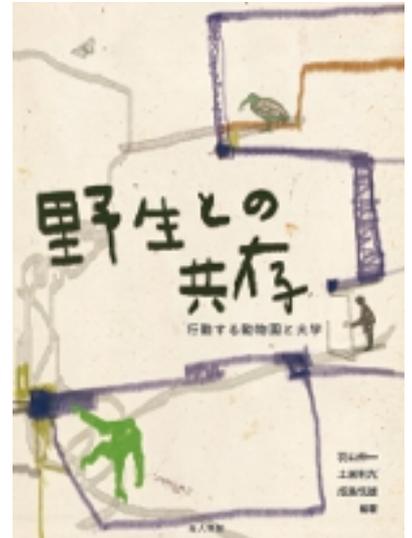
- ・身近ないきもの探検
- ・動物園の教育活動
- ・文化園らしい教育活動
- ・子どもたちに今、大事なこと
- ・子どもと自然をつなぐ取り組み
- ・動物園の中にある「近所の自然」

第3部 いのちを科学する

第7章 身近ないのちを科学する

田畑直樹（多摩動物公園園長）

- ・身近ないのちを科学するとは
- ・多摩動物公園の歴史と特徴
- ・多摩動物公園ができること
- ・多摩動物公園のこれから



第8章 イモリを調べる イモリを守る 都立動物園・水族園イモリ調査チーム

- ・減っているイモリ
- ・保全の取り組み
- ・イモリを増やす
- ・イモリを調べる
- ・地域の小学校との連携

第9章 希少動物の人工繁殖技術 堀 達也（日本獣医生命科学大学）

- ・人工繁殖技術とはどういうものか？
- ・精液の採取方法
- ・精子の保存方法：凍結精液
- ・人工授精とはどういうものか？
- ・精液の輸送
- ・卵子に関する人工繁殖技術
- ・胚移植技術とはどういうものか？
- ・卵子（胚）の凍結保存
- ・クローン技術

第10章 糞からわかること ～希少動物の繁殖のために

下川優紀（多摩動物公園）

- ・野生生物保全センターについて
- ・バイオテクノロジーを応用した飼育下繁殖の取り組み
- ・糞を用いたホルモン測定の実用例
- ・飼育下ツシマヤマメコノホルモン測定と行動解析

● ご注文は、全国の書店または直接小社営業部へ

(株)地人書館

〒162-0835 東京都新宿区中町15番地 TEL 03-3235-4422 FAX 03-3235-8984 振替 00160-6-1532

E-mail chijinshokan@nifty.com URL <http://www.chijinshokan.co.jp>